



愛と健康の

かけはし

No.32



編集・発行 情報委員会

神戸朝日病院

住所：神戸市長田区房王寺町3丁目5-25

電話：(078) 612-5151

URL: <http://www.kobe-asahi-hp.com>

診療科目

- 内科
- 小児科
- 外科
- 整形外科
- 消化器科
- 循環器科
- 呼吸器科
- 神経内科
- 放射線科
- リハビリテーション科
- 肛門科

専門外来

- 乳腺外来
- 糖尿病外来
- 人工透析
- 医療相談
- 栄養相談
- 薬剤相談
- 人間ドック
- 健康診断

診療時間

- 【午前診・月～土】
受付 8:00～12:00
診察 9:00～
- 【夜間診・月～金】
受付 17:00～18:30
診察 17:30～

※ただし急病患者については時間制限なく診療いたします。

- 兵庫県肝疾患専門医療機関
- 日本医療機能評価機構認定病院
- 日本肝臓学会認定施設
- 日本消化器病学会認定施設
- 日本消化器内視鏡学会認定施設
- 日本内科学会認定教育関連病院
- 臨床研修病院指定
- 日本医療薬学会研修施設
- 日本静脈経腸栄養学会認定NST稼働施設
- 日本栄養療法推進協会NST稼働認定施設

●小泉内閣時代に決定された医療費・社会保障抑制政策（社会保障1年2千2百億削減）は福田内閣から麻生内閣へと内閣交代したにもかかわらず、2008年になっても貫徹されました。本年10月、首都東京において受け入れる医療機関が見つからず、診療を受けることなく、脳出血の妊婦が死亡した事件は国民に大きな衝撃を与えました。この事件は低医療政策下の医師・看護師不足による医療崩壊の現状を白日のもとに明らかにしました。又、4月に強行された後期高齢者医療制度は『現在の姥捨て山』政策として高齢者をはじめとする国民の大きな怒りは今もなお続いています。

●しかしながら、そうした状況にあっても、開院20周年を迎えた2008年において当院は諸活動を円滑に進めることができました。その成果は以下の通りです。

●第一に、内科、外科、整形外科を中心とした日常診療活動が過不足なく進められてきたことです。とりわけ、地域からの要望の強い救急医療については、2次輪番病院的の当番病院として、西神戸の救急医療の重要な一角を担ってきました。又、兵庫県から肝疾患専門医療機関の認定を受けたことは、開院以来20年間にわたる実績が評価されたものととらえています。肝臓の最多発地域の一つである兵庫県・神戸市において肝炎から肝臓までのトータルケアを進める当院の役割が益々重要になるものと考えています。

●第二に、本年も2人の研修医を迎えるの教育研修病院づくりと学術活動が大きく前進したことです。2008年には日本消化器病学会、肝臓学会などの学会や多くの研究会に医局からは研修医を含んで36題の発表が、他部門から4題の発表がありました。

●第三として、当院の医療活動として日韓医療交流が定着したことです。生活習慣と疾病との関係を明らかにするための日韓協同検診事業も滞りなく進められました。日韓肝疾患シンポジウムは本年8月30日に大阪府で『肝臓の現状と展望』というテーマで行なわれ、その成果は国際医学雑誌、OncoLogyにまとめられる予定です。又11月には、韓国最大の超急性期病院であるサムスン病院への当院の医師・看護師9名の見学研修も実現しました。その詳細はこの紙面で紹介されています。

●2009年も厳しい医療情勢が待ち構えていると予測されますが、私達は2009年も2008年の活動を引継ぎ、着実な医療活動を展開する考えです。

2008年をふりかえって

院長 金守良





番外編

あさひおりえんてーりんぐ

お隣の国の すごーい病院 を見てきました！

サムスンメディカルセンター 韓国 ソウル

当院の医療活動の特徴のひとつに、日韓医学交流があります。
 2006年12月に、成均館大学医学部の申明姫教授と生活習慣病に関する協同研究をスタートしたことにより成均館大学医学部の附属病院でもある韓国最大規模の企業サムングループが誇る総合医療施設サムスンメディカルセンターと、新たな「つながり」が生まれました。
 3回目となる今回は、2008年1月にオープンした「がんセンター」を中心に見学させていただきました。大きな刺激を受けて戻ってきたスタッフの感想を掲載します。



看護部長 熊本 八重子

本館同様、その迫力には圧倒され、あらゆる数字に驚くばかりですが、その数字を生み出している職員の日々の努力と熱意には感心するものがありました。「最高の診療を提供する患者中心の先導的病院」を理念とし全職員が「東洋一の病院を目指す」という大きな目標と誇りを持ち生き生きと仕事をしている様は見習いたいと思いました。看護部においては看護教育チームや看護行政(業務開発)チームなど11のチームに分かれて徹底した教育や実務指導を行っています。規模の違いはあっても私たちもそれぞれの役割をきちんと認識し自信と誇りを持って急性期を目指す神戸朝日病院の目標に向かって前進したいものです。

韓国は近くて遠い国と言われているいろいろなデリケートな問題が問われていますが私たちのできることとしてこのような交流を通じて、国民性や風俗、文化をお互いに理解し、情報交換してさらに成熟していくことが大切ではないかと思います。

	メディカルセンター	がんセンター
建物面積	212,539㎡ 地上20階 地下5階	107,494㎡ 地上11階 地下8階
病床数	1279床	652床
重症患者室	68+43(新生児)室	40室
手術室	30室	20室
外来診察室	125室	51室
医師数	945人	295人
看護師数	1420人	643人
従業員総数	4620人	1934人

2007年の実績(がんセンターオープン前)

1日の平均外来患者数	約7000人(初診:約4800人)
1年間の入院患者	65539人
平均在院日数	6.8日
手術件数	34876件 朝7時半から1番目の手術が始まり、大小あわせて1日約100件の手術が行われている

外来主任 黒田 葉津江

明るく広い、吹き抜けのあるガラス張りのがんセンターでは、外の景色を見ながら待つことができます。どこを見ても時計が見当たりませんでした。気になって待ち時間の事を尋ねました。建物内で携帯電話の使用もでき、患者さまは外出したり、自宅待機したりして連絡を待つなど、待ち時間を感じさせない工夫をされていました。

地下2階の患者教育センターには肝、大腸、肺、乳がんなどの特徴、治療法などが、大きなパネルで壁一面に貼ってありました。ハングルが読めないことがとても残念でした。

3階主任 秋山 珠紀

看護部門は「患者中心の最上の看護を提供する」ことを目標に、アメリカ公的機関認定の専門看護師の育成や経歴管理システムにおいての優れた人材を育成する事に力を注いでいました。スタッフの皆さんは勉強熱心で向上心が非常に高く、理想に近づけるよう日々努力されている印象を持ちました。

今回の研修を通して、日々の業務の中で、私自身が見失いかけていた目標とする看護師像を改めて再認識したと同時に、一歩でも近づけるよう努力したいと思いました。

『看護の視点』『同じ医療に携わるもの』として見学しました

4階主任 稲岡 里奈

第1に「このセンターで働くすべての人がセンターに誇りを持ち、生き生きと働いている」第2に「専門病院ということが確立している」ということを感じました。

このセンターでは、患者様が心地よく受診できるような配慮がなされ、職員が同じ目標を認識しその目標に向かっていてと感じました。当たり前のようにでなかなか意思統一できないことだと思えます。専門病院であるには、職員全体がその事を認識しないと始まりません。その上で自分自身が何をしなければならぬか、また何が自分の役割なのかを明確にすることが出来ると思えます。認識させる「仕組み」が「看護教育」「職員教育」に取り入れられていました。

私たちも「肝臓疾患専門病院」ということをしっかり認識し、もう一度知識を正確にし、技術を向上させたいと強く思います。

5階主任 間嶋 友紀子

ただただ驚きの連続の研修でした。職員のモチベーションの高さは、高い競争率を勝ち抜いての就職としっかりした教育体制の上に皆の意識が高く保たれているのではないかと感じました。一丸となって患者さまのために東洋一の病院を目指しているという活き活きとした働きぶりは、輝いて見えました。

当院も今年の8月に肝疾患専門病院の認定を受け、更なる発展を求められていると思えます。

患者さまにとって最良の医療と看護が提供出来るように自己研鑽に励みたいと思っています。



どの分野でもNo1を目指すというグループの目標を象徴するモニュメント

研修医1年生という立場でこのような貴重な経験をさせていただいたことに感謝いたします

研修医 粕 雄一郎

病院見学で一番印象に残ったのは巨大病院でありながら患者一人一人に対して丁寧な対応をされている事です。例えば、どんな病気で患者自身がその病気についてしっかりと理解する事が重要であるわけですが、その事を実践するために、外来には患者教育担当の看護師がおられましたし、病院内に患者さまのための教育センターが設けられており、その中には各種の「がん」に対する丁寧な説明が巨大パネルで展示されており、教育ビデオや簡便な教科書を閲覧できるミニ図書館もありました。

正直な所、アジアにおいては、日本が一番医療水準が高いと思っていましたが、このような大規模かつ最先端の病院を見学した今では認識を改めざるを得ません。個人的にはこのような気持ちになれた事が今回の一番の収穫だったと思います。

研修医 西川 遼

サムスンメディカルセンターは、国中から、時には海外からも患者さんが来院するような病院でした。

当院でも実践していけそうな点として、「教育」が挙げられるのではないかと感じました。センターにおける教育とは、職員と患者さんの双方に対するものです。病院の目指す理想の医療を実現するための職員教育。そして、疾患を理解し治療へのモチベーションを高め、安心して納得のいく医療を受けて頂くための患者教育です。

職員教育の具体例としては、検査予約等をより無駄なくスピーディに行えるよう、事務系の職員にもある程度の医学的知識を教え、医師や看護師といった医療スタッフには、日進月歩の医療システムに取り残されないように、電子カルテや医療用画像配信システムなどの操作法などを叩き込む、といったことが挙げられます。

また、患者さん向けの医学セミナーも数多く開催され、まるで学校の時間割の如くビッシリと予定が組まれていました。さらに、個々の患者さんに対し、より詳細な知識を提供し共に治療方針を考える役割を担う教育看護師という役割が設けられていました。

世界トップ水準の医療を、一方通行にならずに提供しようとする姿勢に大変感心しました。また、超大規模病院であるにも関わらず院内全体で理想や目標を職員が共有できている点に驚きました。

今回の研修を機に少しでも前進していきたいと思いました。



広いメディカルセンター

吹き抜けのあるがんセンター 各部署にはスタッフの写りがパネル掲示

スラットとOPE室

見やすいパネルが1面に

旬の野菜で あったかスープ

栄養科
威徳 由香

里芋は、栄養豊富で芋類の中でも最もカロリーの低い旬の食材です。里芋には特有のぬめりがあり、このぬめり成分は、ガラクトタンやムチンと呼ばれます。ガラクトタンは、血圧やコレステロールを下げる効果や脳を活性化する効果があると言われています。ムチンには、胃や腸の潰瘍を予防し、肝臓を強化する効果があります。

きのこは、低カロリーで、ミネラル類・食物繊維が豊富に含まれています。また、動脈硬化を防ぐ効果が期待できると言われるビタミンB₂も含まれています。体調を崩しやすい冬の時期にぴったりの一品です。



和風カレースープ

材料(2人分)

- 里芋 4~5個
- きのこ類 100g
(しめじ、エリンギ、まいたけなど)
- 長ねぎ 1本
- 人参 1/4本
- 青ねぎ 少々
- 牛肉 200g
- 水 800cc
- カレールー 60g

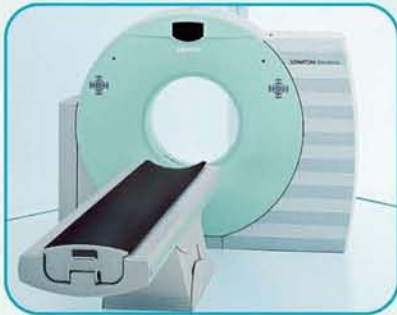
1人分

- エネルギー:350kcal
- たんぱく:15.3g
- 塩分:5.8g
- A
- 酒 大さじ3
- しょうゆ 大さじ3
- 砂糖 大さじ2

作り方

- ① 里芋は一口大、人参はいちょうに切り、きのこ類は小房に分ける。長ねぎは斜め1cm幅に切り、牛肉は2~3cm幅に切る。
- ② 鍋に里芋を入れて、里芋に火が通るまで煮て、あくを除く。
- ③ 人参・きのこ類・牛肉・Aを加え、煮立ったら長ねぎを加えてひと煮する。
- ④ カレールーを加えて、ひと煮する。
- ⑤ 盛り付けて、青ねぎをのせる。

X線CT装置が新しくなりました!



今年11月末にマルチスライスX線CT装置エモーション (SIEMENS社製 SOMATOM Emotion 16-slice Configuration) を導入しました。今回導入の新CT装置エモーションは、1回転で1度に16枚のスライス画像を収集することができ、その1スライスの厚さは、最小で約0.6mmとシャープペンシルの芯より少し太い程度の厚さです。

また、1スライス0.6mmの膨大なデータを基にして、輪切り像(通常のCT画像)だけでなく、冠状断像(身体をお腹側から背中側へと順に切った画像)や、矢状断(身体を縦に切った画像)など、いろいろな断面の画像を容易に作成することが可能になりました。造影剤を用いた検査では、撮像画像から血管像を3次元で表すことも出来るようになりました。



また、多量のデータを収集するにもかかわらず、横隔膜から恥骨までの上下腹部領域を10数秒の息止めで撮影することができ、従来の約1/4の撮像時間で撮影することが出来ます。これまで、長い息止めにご協力いただいていたましたが、息止め時間の短縮により、患者様に優しい検査が出来る様になりました。



今後は、新しいX線CT装置と新しい技術を駆使し、患者さまのよりよい医療に向けて一層努力いたします。

編集後記

サムスンメディカルセンターは、市民病院と大学の医学部附属病院と災害医療センターの機能を1つにしたような巨大な病院(院長談)です。前回の見学時にメディカルセンターの成英照看護部長が教えてくださったことがあります。

「サムスンメディカルセンターでは、良い病院にするため患者さまにアンケートを行いました。」

「病院の何が嫌いですか?」回答は次の通りでした。

- におい(消毒剤、薬品、トイレ)
- 看護師の白い服
- 待ち時間
- 説明がないこと

患者さまが嫌なことを徹底的に排除すれば、良い病院になります。私たちはそれらを全て実践しました。あなた方も、日本に戻られたら、患者さまに尋ねてみると良いでしょう。」

不言実行あるのみです!

(医療情報部 谷口)

● 検査依頼(予約)に関するお問い合わせ ●

神戸朝日病院 放射線科直通 078-612-5392

● 検査内容についての疑問、質問などお問い合わせ ●

神戸朝日病院 放射線科直通 078-612-5391